

インフルエンザに対する麻黄湯使用上の注意

いよいよインフルエンザ流行の季節を迎えます。インフルエンザの治療に麻黄湯は効能・効果が認められており、汎用されることが予想されます。麻黄湯の主薬である麻黄にはエフェドリン類が含まれており、交感神経刺激作用がありますので、その薬理作用を十分に承知の上、証に随って適性に使用して下さい。高血圧、虚血性心疾患、緑内障、前立腺肥大症を有する患者には特に注意が必要です。

基礎研究では麻黄に含まれるタンニン（エピカテキン）に塩酸アマンタジン類似のウイルス不活化作用のあることが明らかにされており、また桂皮のシナムアルデヒドにはウイルス遺伝子転写後の蛋白合成の阻害による抗ウイルス作用が明らかにされています。抗インフルエンザ薬とは作用点が異なります。

症例集積研究では、インフルエンザによる発熱などの諸症状の発現期間を短縮することが報告されております。

しかし、麻黄湯は平素から体力があり、発熱しても汗が出ない患者さんが適応となる方剤です。虚弱な患者さんや長期の不必要な連用では脱汗（過度の発汗によるショック状態）を来す危険性があります。患者さんの病態に応じて、他の処方（麻黄附子細辛湯、桂麻各半湯、葛根湯、桂枝湯、真武湯）などを適切に選択することを日本東洋医学会として要請します。

社団法人日本東洋医学会
健康保険担当委員会